



2010 MOUNTAIN BIKE

# Practical Event Guide

For ORGANIZERS, COMMISSAIRES and RACE DIRECTORS

# Contents

目次:	Introduction.....	3
	2009-2012 マウンテンバイク競技関係運営予定 .....	3
	公認大会の種類 .....	4
	マウンテンバイク .....	5
	Structure.....	5
	NEWS.....	6
	ガイドライン	
	<タイトル> .....	7
	<協賛規定> .....	7
	<選手参加資格> .....	8
	<オーガナイザーの義務> .....	8
	<JCFの義務> .....	9
	<任命競技役員の仕事> .....	10
	<テクニカル(総合)> .....	10
	参加選手募集	レジストレーション
	運営	トレーニング
	報告	関係書類
	アンチ・ドーピング	プレス
	<テクニカル(クロスカントリー)> .....	17
	デュレーション	コース
	スタート	ラップ/フィニッシュ
	オーソライズドテクニカルアシスタンス	ステー징
	<テクニカル(ダウンヒル)> .....	19
	運営	計測機器
	<テクニカル(4クロス)> .....	20
	運営	コース
	<テクニカル(XCTT)> .....	20
	運営	
	<テクニカル(マラソン・フォーマット)> .....	20
	コース	
	<テクニカル(その他の種目)> .....	20
	競技規則 .....	21
	ナショナル・ランキングについて(JCFナショナル個人ランキング) .....	21
	ジャパン・シリーズ・チャンピオン .....	21
	チーム・ランキング .....	21
	Jについて.....	22
	ポイントテーブル .....	23
	国際コミッセルの行動規定.....	24
	様式.....	28
	マウンテンバイク競技大会組織図(参考)	コース公認データ確認書
	計測機材承認願	公認大会開催申請書・大会チェックリスト
	チームマネージャーズ・ミーティング出席者リスト	
	議事録 クロスカントリー	議事録 ダウンヒル
	コミッセル・パネル・チェックリスト	フィードゾーン許可証発行リスト
	周回遅れ及び80%での除外競技者リスト	ペナルティ・フォーム
	リザルト・リターン・フォーム UCI	
	チーフ・コミッセルの評価	レース・ディレクターの評価
	コース・マーシャル・ハンドブック	コース・マーシャル記録用紙
	スタートリスト(例)	リザルトフォーム (例)
	タイミグ・オフィシャル報告書	コミュニケ(例)
	クロスカントリー標準設定時間表	ナンバー配分表
	競技大会・シーズン・パス申請書	
	報道関係者向けノータイス(例) .....	67
	各種防災気象情報 .....	68
	記録収集 全日本選手権大会過去記録 .....	72
	ネーションコード.....	77
	関係連絡先リスト .....	79

## Contacts

必要な事項、不明な点については下記宛て照会ください。

<p><b>(財)日本自転車競技連盟 事務局 業務部</b></p> <p>〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-15 日本自転車会館          TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508  <a href="mailto:cycling@japan-sports.or.jp">cycling@japan-sports.or.jp</a>    <a href="http://www.jcf.or.jp">http://www.jcf.or.jp</a></p>	<p><b>日本マウンテンバイク協会</b></p> <p>JCFマウンテンバイク競技登録事務局    担当: 高橋          〒160-0015 東京都新宿区大京町 21-41          TEL 03-3358-6030 FAX 03-5363-3201  <a href="mailto:info@japan-mtb.org">info@japan-mtb.org</a>    <a href="http://www.japan-mtb.org">http://www.japan-mtb.org</a></p>
---	---



## Introduction

このガイドの目的:

マウンテンバイクというスポーツを普及・振興する上で大会の成功は非常に大きな役目をになっています。大会の実施には様々な課題があり、困難をとまなう場合もありますが、可能な限りそれを実現するために、このイベント・ガイドには、本年度の運営関係基準や方法などが盛り込まれています。

大会開催においては、このガイドの他、競技者向け「競技インフォメーション」、競技規則「UCI 競技規則(PART1 スポーツとしての自転車競技組織、PART4 マウンテンバイク・レース)」もあわせてご参照ください。(同様にホームページなどで入手頂けます)

新規設定の各事項もありますので、ぜひ、内容ご熟読の上、大会の成功に繋がりたいと存じますので、よろしくご配慮の程お願い申し上げますとともに、内容につきましてのご質問などありましたら遠慮無くご連絡頂きますようお願い申し上げます。

マウンテンバイク委員会

山本 康雄  
杉山 喜一  
高橋 博  
中西 裕幸  
西井 匠

### 2010-2012 マウンテンバイク競技関係運営予定

2010	3月	JCF理事会によりカレンダー等承認
	4月	2010 年度公認大会開幕
	6月15日	2011 年度 公認大会(J-UCI)候補確認-UCIカレンダー 登録 国内締切 10/01
	7月17-19日	第23回全日本マウンテンバイク選手権大会(UCI各国指定日) 長野県 富士見町
	8月14-26日	2010 ユース・オリンピック・ゲームズ(シンガポール) <a href="http://www.singapore2010.sg/">http://www.singapore2010.sg/</a>
	8月31-9月5日	世界マウンテンバイク選手権大会(カナダ・モンサンタン) <a href="http://www.uci.ch/">http://www.uci.ch/</a>
	9月26-10月1日	2010 アジア大陸マウンテンバイク選手権大会(韓国) <a href="http://www.asiancycling.com/">http://www.asiancycling.com/</a>
	11月12-27日	第16回アジア競技大会(中国・広州) <a href="http://www.gz2010.cn/en/">http://www.gz2010.cn/en/</a>
	12月11-13日	2011 年度 カレンダー 暫定発表(至るサイクルモード/案)
	12月	2011 年度UCIカレンダー発表
2011	3月	公認審判員講習会(東京都港区赤坂 自転車会館)
	3月	公認大会オーガナイザー会議(東京都港区赤坂 自転車会館)
	4月	2011 年度公認大会開幕
	6月	2012 年度 公認大会(J-UCI)候補確認-UCIカレンダー 登録
	7月15-17日	第24回全日本選手権大会(UCI各国指定日)
	8月30-9月4日	世界選手権大会(スイス・シャンペリー) <a href="http://www.uci.ch/">http://www.uci.ch/</a>
2012	6月	2013 年度 公認大会(J-UCI)候補確認-UCIカレンダー 登録
	6月	第25回全日本選手権大会(UCI各国指定日)
	7月27-8月12日	第30回オリンピック競技大会(イギリス・ロンドン) <a href="http://www.london2012.com/">http://www.london2012.com/</a>



## 公認大会の種類

次の種類の公認大会、後援大会を設定する。

	略号	名称	内容 大会側	内容 選手側
1	JCS	全日本マウンテンバイク選手権大会	クロスカントリー、ダウンヒル、4Xの日本チャンピオン決定大会。 年1回開催	
2	J	マウンテンバイク・ジャパン・シリーズ	ジャパン・シリーズのなかで、特にJCFにより国際大会を基準にした任意に選定された大会。 設定数 年間3大会程度。	
3	J1	マウンテンバイク・ジャパン・シリーズ	ジャパン・シリーズ 設定数 年間8大会程度  開催されるエリート・カテゴリーでは世界選手権大会・アジア選手権等の選考参考大会となる位置づけ。 国内最高峰のシリーズとして、XCO(オリンピック・クロスカントリー)、DHI(ダウンヒル)、世界選手権種目を実施する。	競技レベル： 高い(スポーツ・カテゴリーでは別コースを使用する場合もあるが、難易度の高い部分もあるコース設定。各カテゴリーとも全国からの参加)  1位獲得ポイント： 175点(オール・カテゴリー)
4	J2	J2公認	ナショナル・ポイントの集計対象大会。 設定数 年間1～20大会 地区レベルでの開催で次期のジャパン・シリーズへの昇格などを意識する大会。 実施種目はXCO(オリンピック・クロスカントリー)、DHI(ダウンヒル)の世界選手権種目開催を基本とする。 初年度公認大会開催の場合には原則J2よりとなる。	競技レベル： 中(原則的に全てのカテゴリーで同じコース。ジャパン・シリーズのようなエリート・カテゴリーよりも、難易度が高すぎる部分を設けないコース設定でおこなう。)  1位獲得ポイント： 100点(スポーツ/エキスパート) 75点(エリート)
5	J3	J3公認	ナショナル・ポイントの集計対象大会。 設定数 年間1～20大会 XCO、DHIのほか、XCT(タイムトライアル)、XCE(エンデュランス)DH M(マストスタートダウンヒル)などの種目も実施される場合がある。	競技レベル： 入門的公認レース(原則的に全てのカテゴリーで同じコースを使用。入門を意識した難易度が高くないコース設定。) 参加しやすい大会として地域での公認大会への入門的大会の位置づけ。  1位獲得ポイント： 20点(オールカテゴリー)
6	Jx	公認	上記以外の公認大会  ユースカテゴリーの大会等、ポイント対象とならないものなどの中で特に公認大会として行うもの。	
7	K	後援大会	全国的な普及を目的とする大会で特に連盟が後援する大会。	

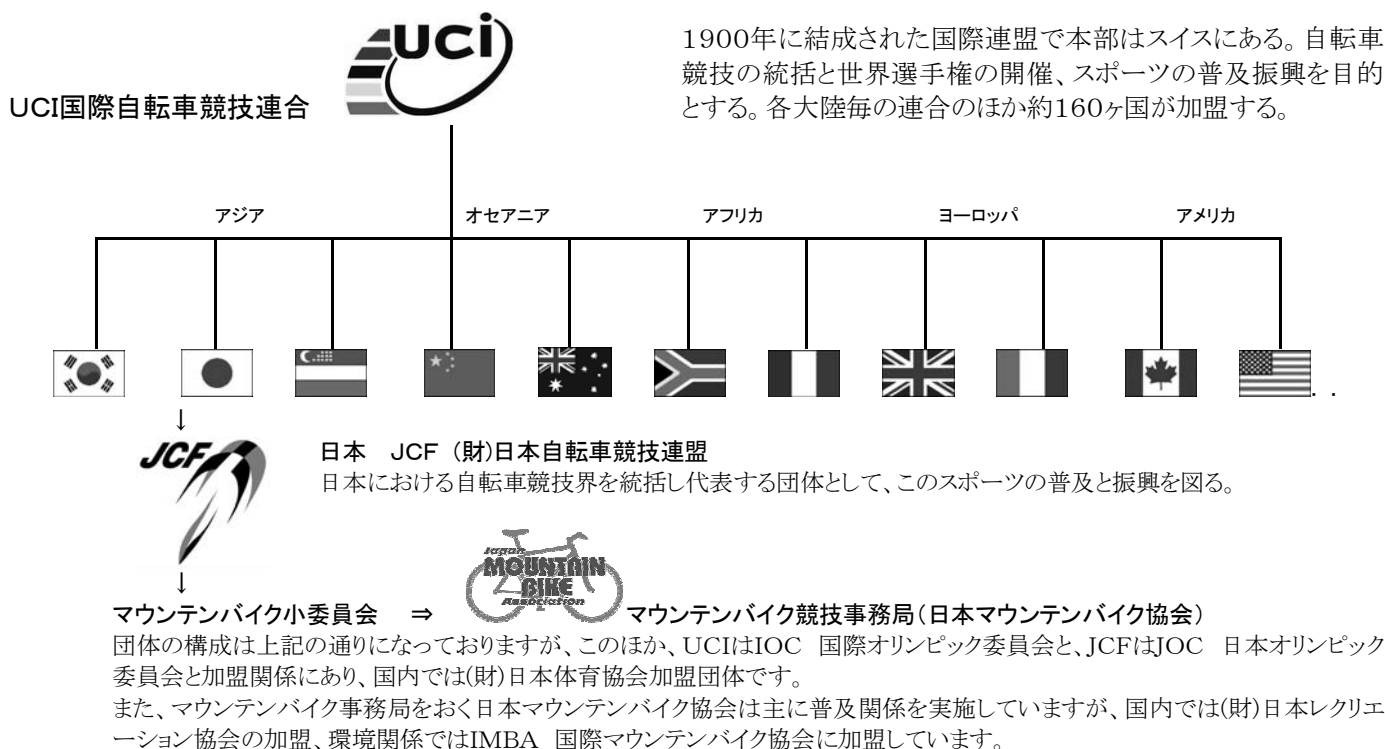


## Mountain Bike

マウンテンバイクは、1970年代の後半にアメリカで誕生したといわれています。自転車やアウトドア・スポーツが大好きな仲間達が改造自転車で山道を走り遊んでいたのですが、過激な走りに性能が追いつかず、彼らによって自転車の改良が始まりました。強力なブレーキや、ワイドな変速ギヤなどを装備し、マウンテンバイクの元祖となる自転車が出来上がったのが1974年頃のことです。次第にマウンテンバイクは山道を下るだけの道具から、オフロードを自在に走って楽しむ新しい遊びの道具として愛好者を世界に拡大。1980年には日本にマウンテンバイクの概念が入ってきました。

1980年代後半になると、マウンテンバイクの競技が盛んになりました。国内では日本マウンテンバイク協会が1988年に全日本選手権を初開催。同年に開催されたNORBA世界選手権大会には5名の代表選手を派遣しています。1990年には、アメリカ(コロラド)でUCI(国際自転車競技連合:Union Cycliste Internationale)による第1回の世界選手権が開催されました。1990年代に入ると、マウンテンバイクのレジャー人口・競技人口とも飛躍的に拡大。UCIでは、世界各地を転戦して総合ポイントを競う「ワールドカップ」を開催。国内でも転戦してポイントを競う「JCF・ジャパン・シリーズ」をはじめ、全国で愛好者が気軽に参加できるマウンテンバイク競技やイベントが年間100以上開催されています。1996年のアトランタ・オリンピックでは、クロスカントリー競技が正式種目として実施され、これにより国際的に認知され、その後のオリンピック競技大会、アジア大会、ユニバーシアードでの実施、ユース・オリンピックでの種目採用など、各国で活発な活動がされています。

## Structure



## NEWS

前にも増して大会開催を取り巻く状況は厳しい現状ですが、大会主催者、行政、会場、関係団体の協力により継続しております。大会のプログラムなども各種の変更などの改良により、次回のオリンピック、ロンドン大会に向けての2年目として邁進いたします。よりよい大会に向けての変更点、追加事項をダイジェストで紹介いたします。

### 昨年までに計画、実施された内容および評価

- A 公認大会の国際登録。  
2007年度2大会と、2008年度1大会、2009年度1大会、2010年度1大会、および毎年の全日本選手権を登録。2011年に向けては全てのジャパン・シリーズとして計画。J の国際化について進めることにより、日本のオリンピック・世界選手権への参加枠獲得。国内大会の活性化をはかる。
- B 公認審判員講習会の開催  
2007年3月に第2級、6名が合格。2009年度には第2級講習を実施し5名が合格。
- C プライズ・マネー  
必須として実施。評価はされているが、依然財源が課題であり各方面に協力を依頼中。
- D エントリーの簡略化  
一部でウェブ上でのエントリーを実施し参加競技者への利便性を向上。2010年度も推奨する。
- E チーム・ランキング  
登録されたチーム(トレード・チーム)により年間のランキングを実施。
- F マスターの表彰  
全日本選手権で実施。継続実施し、マスターズ世界選手権も推奨する。2010年度には40,50クラスも表彰。
- G 会員の保険加入  
約3分の1が加入し保険請求は年間10名程度。引き続き加入の啓蒙活動を行う。
- H クロスカントリー競技時間  
競技時間の若干の縮小によりスムーズな運営が行えた。

### 新規または継続の中で特に重要な内容など

- A ユース競技について  
小中学生とジュニア(17-18才)の間を埋める形で、ユース(14才以上)の競技会を実施。(8月8日 長野)
- B 掲載事項の注意  
ジャパン・シリーズなどの公認大会は、その該当する種目およびカテゴリーについての公認となりますので、他のイベントやカテゴリー、クラスと混同されるような表記は行わないようご注意ください。  
例: ○ 大会名: JCFマウンテンバイク・ジャパン・シリーズ \*\*\*大会  
公認: (財)日本自転車競技連盟  
× 大会名: \*\*\*\*マウンテンバイク・フェスティバル\*\*\*  
公認: (財)日本自転車競技連盟
- C チェックリスト等の大会事前提出  
運営上に於ける諸問題を事前にチェックし、安全で公正な大会運営を推進します。このチェックリスト提出は大会レースディレクターの義務となります。(一部大会報告等で運営に支障がある点が指摘されたために、安全性重視の観点から採用したもの)
- D クロスカントリー競技用補給ボトルについて  
全日本選手権大会、ジャパン・シリーズ(J, J1)における補給ボトルは「株式会社オージーケーカブト」様により提供されます。この納入は全大会共3, 4月に発送を予定されていますので保管についてご協力ください。



## Guide Line

タイトル	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
大会名および、 連続するシリーズ名 および勝者に付与される タイトル名	<p>第23回JCF 全日本マウンテンバイク選手権大会 **** 英文:2010 JCF Japan National Mountain Bike Championships (会場名)</p> <p>略称:JCS</p> <p>タイトル: <u>全日本チャンピオン</u> *クロスカントリー シニア・エリート、U23、 ジュニア、マスター マスター40+ 50+</p> <p>*ダウンヒル シニア・エリート、 ジュニア、マスター マスター40+ 50+</p> <p>*4クロス エリート 各男女</p> <p>チャンピオン・ジャージの贈呈 はマスター、マスター40+、50+を除く</p>	<p>2010 JCF マウンテンバイク・ジャパン・シリーズ **** 英文:2010 JCF Mountain Bike Japan Series (会場名)</p> <p>略称:J、J1</p> <p>タイトル: J および J1による <u>ジャパン・シリーズ・チャンピオン</u> (男女エリート・カテゴリーのみに対して) クロスカントリー ダウンヒル 各男女エリート</p> <p>タローパワープロダクト様 <a href="http://www.power-taro.com">http://www.power-taro.com</a> の協力により下記のロゴを使用できます。 データが必要な場合は事務局宛てご連絡ください。</p>  	<p>J2/J3と大会名に表記する</p> <p>公認大会すべてを集計して高得点ポイントによりランキングを争う対象大会。</p> <p>クロスカントリー ダウンヒル 各男女、各カテゴリー</p> <p>その他の種目開催にあたってはポイント対象とはしない。</p>
	<p><u>チーム・ランキング</u> (登録チーム所属選手のポイントによるチーム毎のランキングの実施)</p>		
協賛規程	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ1 (J/J1)	J2/J3
タイトル スポンサー (独占)	この項目は(財)日本自転車競技連盟の決定による。いかなる場合もJCF承認無しに使用することは出来ない。このタイトル・スポンサーを各大会主催者は尊重しなければならない。大会側では専用のブースエリア、バナー設置などが含まれる。		各大会に於いて設定できる。
コ・スポンサー (半独占)	この項目は(財)日本自転車競技連盟の決定による。いかなる場合もJCF承認無しに使用することは出来ない。このコ・スポンサーを各大会主催者は尊重しなければならない。大会側では専用のブースエリア(2小間)、バナー設置(スタート/フィニッシュエリア計4枚)、ロゴ入りコーステープ、ロゴ入り補給ボトルの使用、全日本選手権大会におけるパンフレットに広告掲載1Pなどが義務となります。 「グロープライド株式会社」、「株式会社オージーケーカプト」(機材供給、協賛) 「アメアスポーツジャパン株式会社」、「株式会社シマノ」(メカニックサービス)		各大会に於いて設定できる。
ローカル・ スポンサー (現地)	この項目は(財)日本自転車競技連盟の決定による。	各大会に於いて設定できる。但しタイトル・スポンサー等と同業種の場合にはJCFと調整が必要である。尚、男女エリートのナンバーの協賛スペースについては強化関係費用捻出のために連盟が設定する権利を保持します。	各大会に於いて設定できる。



選手参加資格	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
	日本国籍所持者で、17才以上(UCI規定)。各設定された年齢カテゴリーに参加できる。 マラソンは19才以上	最低登録年齢制の実施 登録は14才以上とし、エリート登録は17才以上(ダウンヒルのみ特例あり)  2011年度より、年令クラスについてはUCIの規則に則り変更の予定。	
オーガナイザーの義務	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
1	競技運営責任者として、レース・ディレクターの任命 (同職は、名誉役職ではないため、必ず業務上、実践的な任命をお願いします)		
2	運営組織の作成。下記にあるような各部署が円滑に活動できるような運営組織および各部長。 レジストレーション(受付)、マーシャル、レスキュー、メディカル、コース(設営、管理)、タイミング、プレス/メディア、アワーズ(賞典)、エキスポ(展示)、ハウジング(宿泊)、トランスポート(輸送)等、必要であるもの。		
3	大会の概要を別紙の基準により立候補時に提出し、変更があった場合は再度提出する。内定後に公認大会申請書およびチェックリストを大会3ヶ月前に提出しなければならない。これらの情報はJCF事務局および競技登録事務局に送付し、事務局はあわせて任命コミッセルに連絡する。		
4	テクニカルガイドを作製し、任命TD、チーフ・コミッセルとの確認を行う。 (テクニカルガイドおよびチェックリストは任命コミッセルにより大会報告書に含まれる)		
5	会場地区の許可申請手続きを行う(都道府県庁、市町村役場、警察署、営林署、消防署、病院、その他)。特にランド・アクセス、アセスメントについては十分に注意し大会関係者に理解してもらう必要がある。必要であれば専門家による調査も行うこと。 合法的、正規の許可を得る。 事前事後の環境への責任を果たす。		
6	大会役員構成のプランニングをJCFとともに行う。	大会役員構成についてJCFに報告する	
7	大会競技運営役員、コースマーシャル、医療スタッフ等の宿泊、交通、謝金等について責任を負う。		
8	連盟派遣である場合の、任命コミッセル(最大6名)、TD(最大1名)、スーパーバイザー、タイミングスタッフ等の現地宿泊食事について責任を負う。その他、アシスタント・コミッセルとして5名までのインターン制度による配分があった場合の昼食の責任。インターンの交通宿泊については自己負担とするが、宿泊については極力ご協力いただきたい。  現地宿泊についての基準は:プログラム稼働日数に+最大1日までの宿泊の提供(宿泊および3食を含む)。	JCF任命コミッセル(J2/2名)の宿泊、交通、謝金等について責任を負う。  最低基準は次のとおり。 ・旅費: 公共交通機関による居住地最寄り駅から現地最寄り駅までの普通料金、および片道 80km を越える場合の特急指定席料金の合計額。 ・日当: 1日 3,000 円として稼働日数および大会プログラム実施日分。 ・宿泊: プログラム稼働日数に+最大1日までの宿泊の提供(宿泊および3食を含む。現金支給の場合には事前に問い合わせが必要)。	
9	以下の部署配備の競技役員は最低3級のマウンテンバイク公認審判員であること。 マーシャルコーディネーター、スタート/フィニッシュ、セクレタリーアシスタント (ライセンス取得者がいない場合には事前に講習会により取得すること)	最低3名の3級マウンテンバイク公認審判員が次の部署に配置されること。 マーシャルコーディネーター、スタート/フィニッシュ、セクレタリーアシスタント (ライセンス取得者がいない場合には事前に講習会により取得すること)	
10	UCI競技規則を遵守したコースの提供 (規則に合致しない部分については任命TDまたはチーフコミッセルにより判断され、公認大会として実施できるかどうかの判断も行う)		
11	レスキュー(救護)についての提供 UCI 公認ではマーシャル・コーディネーターは英会話ができること。		





オーガナイザーの義務	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
12	大会会場における連盟コミッセル専用の部屋および、机、イス、コピー等備品の提供、および、チーム・マネージャーズ・ミーティング開催部屋の設定。 Jにおいては、タイミング関係のテント、机6、イス12、計測ライン設置、表示ボード設置場所の提供。およびタイミング運営補助員の提供。(別記スコアリングのメンバーとは別途)		派遣コミッセルの業務遂行に支障の無い施設、備品の提供
13	報道関係に対しての十分な告知計画および実施についての対応。報道向けの施設の提供		
14	参加者および大会役員、関係者の保険契約および対応。これには、大会に於ける賠償責任保険も含まれる。主催者加入の参加者向け最低契約金額は次のとおり：入院(1日)2000円以上、死亡280万円以上。  <b>各大会では、後援として「日本マウンテンバイク協会」の掲載が必要。</b> これは、2007年度より開始した選手および役員向けの保険適用のための必須事項となります。対象者は一般会員になることが必要ですが、保障は次のようなものになります。 ・協会管理下(協会主催、後援大会など)での事故により本人が傷害(ケガ)を被った場合の保障。傷害補償 死亡保障金 2000万円(突然死180万円) 入院保障金(日額)4000円 通院(日額)1500円 賠償責任 1人1億円 身体財物合計 1事故5億円。 <b>これで、全てがカバーされるものではありませんので、大会側の加入する保険は従来通り必要です。</b>		
15	参加者、報道、観客、協賛社等への宿泊、交通に関する十分な案内		
16	事前受付における参加者のライセンス、登録についての確認(公認カテゴリーは登録者のみの競技とする)		
17	連盟認定済みのタイミング機材のみ使用できる。 全日本選手権大会/Jにおいては連盟選定による。		最低限スポーツタイミングシステムの使用。
18	コミュニケ・リザルト・サービス 規定のリザルト・フォーマットにより作成し関係者に対して(コミッセル、レジストレーション、ステー징(召集)、PA(放送)、プレス(報道)、スポンサー(協賛社)等への配布。		
19	大会終了後24時間以内に次への結果の報告。(E-Mailおよび、FAX) 併せて国際大会では競技終了後2時間以内にUCIへ報告。 (財)日本自転車競技連盟事務局 E-mail: <a href="mailto:cycling@japan-sports.or.jp">cycling@japan-sports.or.jp</a> FAX 03-5561-0508 マウンテンバイク事務局 E-mail: <a href="mailto:info@japan-mtb.org">info@japan-mtb.org</a> FAX 03-5363-3201 共同通信社 スポーツデータ部 FAX 03-5402-8854 男女エリートのみ		
20	大会報告書の作成とJCFへの送付(大会終了後1ヵ月以内)		
21	公認決定後に大会の実施内容についての変更をしようとするときには、あらかじめ連盟会長の承認が必要となる。速やかに変更部分について申請を行うこと。		
22	公認決定後、大会公認料は別途請求書により例外なく各大会オーガナイザーが支払うものとする。		
23	その他、競技を安全、公平、円滑に実施する為に、 <b>本ガイドにある運営部分の設備、機材の提供</b> 、担当TDまたはチーフ・コミッセルが妥当と判断する業務。(内容については十分に検討しコミュニケーションを図り判断すること)		
24	アンチ・ドーピング検査が行われる場合に、使用する部屋、施設、飲料などの準備。		
25	(財)日本自転車競技連盟および、競技登録事務局が定める、個人情報についての取り扱いに準じて、適切に保護、管理、運用、利用を徹底すること。また、これらについての表記を申請書等に明記すること。		
26	大会開催にあたっての、スタート・フィニッシュゲート(バナーは連盟提供)、表彰ステージ、十分カバーされるPAシステム(必要があればFM同時放送)、関係者、観客をカバーする駐車場、休憩所等の施設。 <b>気体充填式ゲートは使用できない。</b>		

JCFの業務	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
1		大会開催についての義務、権利の確認	
2	開催に先立ち、TD等(最大派遣数3名)による会場の認定 (新会場の場合、コース公認が少なくとも募集告知以前に行われなければならない。) これらの視察に関わる経費は主催者が責任を負う。		
3	競技役員(カレッジ・オブ・コミッセル、アシスタント・コミッセル、TD)の任命		競技役員(コミッセル)の任命

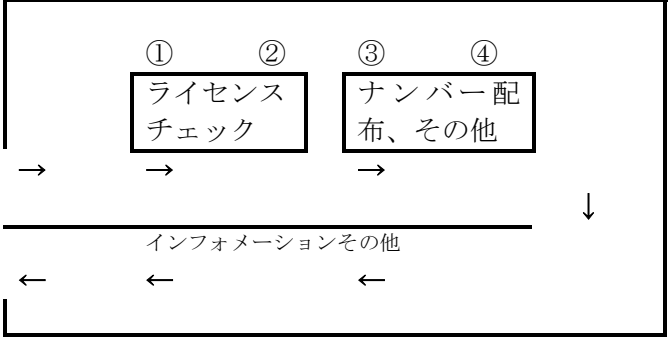


JCFの業務	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
4	公認競技の規定賞典の提供 <del>手配</del> 。メダル、賞状、チャンピオンジャージ。(事前に決定された賞典の範囲であるのでご確認ください)		賞典については各大会による
5	必要備品の作製、管理	シリーズ共通備品の作製、管理、配布、提供。(予定品目 スタートフィニッシュバナー、コーステープ、シリーズ協賛社バナー、ナンバープレート、ボディナンバー 賞典品)	チェックリストによる備品準備関係事前確認を行う。必要により事前に役員派遣に対応する。
6	タイミングシステムの提供または一部負担		
7	UCI への報告	必要な場合のUCI への報告	
8		年間表彰	
9	総合的なパブリシティ活動		

任命競技役員の業務	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
1	競技運営上において、競技役員の客観性と独立性を保つこと。		
2	任命された大会について事前にチェックすること。		
3	開催地に於ける運営サイドとのミーティングおよび指導		
4	開催地に於ける事前チェック(運営役員、コース、スケジュール、運営形態、計測機器、備品等)		
5	終了後の連盟への報告		
6	コースインスペクション(規則に合致しているか?安全性の問題点がないか?改善場所の指摘および改善確認)		
7	会場インスペクション(レジストレーション、救護、プレス、マーシャル配置、フィードゾーン、ドラッグテスト等)		
8	ドキュメントの確認(各種マニュアル、プログラム、コミュニケ、スタートリスト、リザルト様式)		
9	参加資格の有無、ナンバー配分、カテゴリー配分の確認		
10	トレイルインパクト(コースに与える影響)の確認 参考: <a href="http://www.imba.com">http://www.imba.com</a>		
11	各部署の運営計画の確認:タイミング・スコアリング計画、レスキュー計画(人員、機材、運営計画、保険関係)		
12	アワード(表彰式の運営状況確認)		
13	コミッセール、TDウェアの着用(可能である場合)		

テクニカル (総合)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
参加選手募集	<p>公認大会は原則的に総てのマウンテンバイク登録競技者に告知される。告知方法は、ダイレクトメール、専門誌広告、インターネットなどである。大会告知時に登録されていない参加者は各自大会事務局に問い合わせして申し込み手続きを行う。ダイレクトメール送付についての個人情報取り扱いには十分に注意すること。<b>2010年度よりダイレクトメールの発送は必須とはしない。但しWEBじょうでの情報提供を強化するために、大会情報については競技事務局宛てに送付のこと。</b></p> <p>参加申し込みにあたっては、次の項目を最低限盛り込む。氏名、フリガナ、生年月日、性別、参加種目、カテゴリー、チーム・クラブ名、現住所、電話、FAX、E-Mail、JCFライセンス番号、マウンテンバイク登録番号、固定#。 大会の内容については基本内容の他、必要事項については募集要項にて明記すること。その後の変更等に関しては参加受理書を発行すること。また、事前に告知された項目以外での費用徴収は行ってはならない。</p> <p>また受付については、現金書留などの一般的方法の他、迅速な受付業務のためにスポーツエントリー(オンライン受付)の採用を推奨する。(公認大会については特別料金適用を頂いていますので詳しくは下記にご相談ください) スポーツエントリー(運営/株式会社アプロード) 東京営業所 竹内氏 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-38-1 B・Fビル 201 TEL 03-5283-1159</p>		
	<p>必須記載事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ライセンス</li> </ul> <p>公認カテゴリー参加(スポーツ・エキスパート・エリート)には必ずカテゴリー認定が必要です(スポーツでは1イベント認定分の追加により参加可能)。また、エリート、エキスパートではあわせて(財)日本自転車競技連盟登録も必要となります。参加にあたり、当日ライセンス、会員証の提示が必要です。提示できない場合には出場できないことや、罰則などがある場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・固定ナンバー</li> </ul> <p>本大会では、次のカテゴリーについて固定ナンバープレートを使用します。なお再発行の場合は手数料 が必要となります。</p>		



<p>レジストレーション(選手受付確認)</p>	<p>大会においては、すべての競技者の大会における権利はこのレジストレーション後に発生する。この際には、ライセンスの確認、競技者のナンバーの配布が行われる。ライセンスの確認にはMTBカテゴリーIDの確認も含まれる。この確認用にはMTB事務局に要請して受け取ったEXCELファイルでの登録競技者リストを使用してください。</p> <p>この作業の責任者はセクレタリ・コミッセルとなりますが、コミッセルの指示によりオーガナイザー手配またはインターンによるアシスタント(3級公認審判員)により作業を行ってください。</p> <p>海外からの参戦については、その国が発行するライセンスの確認が必要です。彼/彼女が参加するカテゴリーについてはコミッセルの判断によります。また、その判断についての根拠については本人に説明の義務があります。(国内登録がない場合、その参加者は順位、賞は受けられるがランキングの対象とはならない)</p> <p>ライセンス・コントロールにおいては、該当者のID,名前の照合を行ってください。(ランキングにおいて未登録と見なされて成績が反映されないことが生じるため。)</p>		
	<p>レジストレーション・ルーム レイアウト例</p>  <p>① アシスタントコミッセル  ② コミッセル (セクレタリ・アシスタント)  ③ 運営レジストレーション配布物担当  ④ 運営レジストレーション担当 イレギュラー対応</p>		
<p>テクニカル(総合)</p>	<p>全日本選手権大会 (JCS)</p>	<p>ジャパン・シリーズ (J/J1)</p>	<p>J2/J3</p>
<p>カテゴリー分け</p>	<p>各カテゴリーにおいて、設定人数に満たない場合は、上位のカテゴリーと統合して競技が行われ、統合された上位カテゴリーでの順位、ポイントを受ける。その場合も参加取り消し、参加料の返金は行われず。設定人数は、競技規則にある15名であるがチーフ・コミッセルの判断による。</p> <p>例外としては1名のみ参加など統合できない場合がある。これに関しては主催者は事前に不成立の可能性について参加者の承諾を得る必要がある。</p>		
<p>ナンバープレート(クロスカントリー、ダウンヒル)</p>	<p>昨年度全日本選手権大会優勝者は当該クラスに参加する場合、各クラス最初の番号に割り当てる。</p> <p>また、ステージングにおいても第1番となる。</p>	<p>男女エリート/エキスパートについては昨年度ナショナルシリーズ・ランキング(クロスカントリー/ダウンヒル)順により各競技者にナンバーを割り当てる。特に男子TOP6、女子TOP3はゴールド・プレートを使用する。また、これらの選手の名前をローマ字にて表記する。</p> <p>各大会のスポンサー・ロゴスペースは男子エキスパート、男子スポーツ、女子スポーツにおいてのみ有効。男女エリートについては連盟が保持します。</p> <p>J,J1にて配布されるナンバープレートは年間固定ナンバーとして使用される。</p> <p>競技終了後、在庫分、回収されたナンバーは次の大会会場事務局に主催者が責任を持って送付しなければなりません。</p>	<p>UCI規則通りとする。その他特に規定しないが、コンピュータ処理をする場合でもナンバー配分については目視での作業があることを踏まえて配分に配慮ください。</p>

運営	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3																												
1	コミッセル、TDに対する専用無線の提供(すくなくとも6器+RD通信用1器=計7器)		コミッセルおよび運営側の通信の出来る無線機の提供。																												
解説:	<p>チーフ・コミッセルの無線は、コミッセル間のみではなく、レース・ディレクターやマーシャルとも連絡が取れるように、別系統の無線をもう1台用意する事が必要です。</p> <p>また、特にダウンヒルのスタート、フィニッシュ間のように無線において十分な通信が保証されない場合には別途有線にて確保すること。</p> <p>4Xの場合には、イヤフォンマイクを7セット準備すること。</p>		運営に支障が無い数の無線を用意																												
2	大会開催期間中、毎日チーム・マネージャーズ・ミーティング(監督会議)を行う。		チーム・マネージャーズ・ミーティング(監督会議)またはライダーズ・ミーティングとして必ず競技当日の朝までに行う。前日夕方開催が好ましい。																												
3	スタート/フィニッシュ地点に、コミッセル業務のための適切な施設、備品を用意しなければならない。																														
4	救護システムはすべての地点において、最小限の時間で救援できるようなものを準備しなければならない。大会前に救助のシステムについてチーフ・コミッセルに説明がされなければならない。マーシャルは黄旗、赤旗、無線、ホイッスルを所持し適切な作業を行えるようにしなければならない。																														
5	参加選手リストの作成。レジストレーション用などの他、報道用、アナウンス用には選手氏名のふりがなまたはローマ字表記を付けなければならない。																														
6	<p>JCF競技事務局では、全日本選手権大会/ジャパン・シリーズに対応する、シーズン・パス(ID)を認定された者に発行し、それらには写真を掲示する。</p> <p>各大会では、これらの者以外には別途にIDを製作し必要な者に発行しなければならない。</p> <p>シーズンIDの種類は、次の通り。これらのID所有者に対する権限は別途規定する。</p> <p>オフィシャル、登録プレス、JCF関係VIP、スポンサー、ゲスト</p> <p>各大会にて用意されるIDの種類例。</p> <p>オフィシャル、スタッフ(マーシャル/レスキュー)、プレス、テック/EXPO、ゲスト、チームフィードゾーンパス</p>																														
7	<p>IDは次のような分類による。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>カテゴリー</th> <th>カラー</th> <th>許可場所</th> <th>タイトル</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>コミッセル</td> <td>黄</td> <td>ALL</td> <td>COMMISSAIRE</td> </tr> <tr> <td>TD</td> <td>赤</td> <td>ALL</td> <td>TECHNICAL DELEGATE</td> </tr> <tr> <td>招待</td> <td>青</td> <td></td> <td>VIP</td> </tr> <tr> <td>メディア</td> <td>緑</td> <td></td> <td>MEDIA</td> </tr> <tr> <td>テックサービス (必要ならば)</td> <td>橙</td> <td></td> <td>TECHNICIAN</td> </tr> <tr> <td>チームマネージャ</td> <td>桃</td> <td></td> <td>TEAM MANAGER</td> </tr> </tbody> </table>		カテゴリー	カラー	許可場所	タイトル	コミッセル	黄	ALL	COMMISSAIRE	TD	赤	ALL	TECHNICAL DELEGATE	招待	青		VIP	メディア	緑		MEDIA	テックサービス (必要ならば)	橙		TECHNICIAN	チームマネージャ	桃		TEAM MANAGER	
カテゴリー	カラー	許可場所	タイトル																												
コミッセル	黄	ALL	COMMISSAIRE																												
TD	赤	ALL	TECHNICAL DELEGATE																												
招待	青		VIP																												
メディア	緑		MEDIA																												
テックサービス (必要ならば)	橙		TECHNICIAN																												
チームマネージャ	桃		TEAM MANAGER																												
8	参加申請用紙について、申込用紙の記入項目については下記の内容を必須とする。 氏名(フリガナ)、住所(フリガナ)、生年月日、性別、JCF登録番号、登録カテゴリーID、免責誓約書																														
9	配布プログラムには、記録収集として歴代優勝者のリストを掲載すること。	配布プログラムには、記録収集として歴代優勝者のリストなどを掲載することが望ましい。																													

トレーニング	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
1	競技者はレジストレーションとナンバーの装着によってのみコースの通行を許可される。オーガナイザーは、最初のレースの24時間前までに、トレーニングのためにコースのマーキングを終了し利用可能にしなければならない。最低トレーニング時間は、次の通りとする。		
2	前日に最低3時間以上、当日に45分以上 ダウンヒルについてはエリートのためのトレーニング時間を前日に設定すること(最低30分)		当日に1時間以上 前日は任意とする。
3	登録チームのマネージャに対しては、特別なナンバープレートが発行され、それにより通行が許可される。		
4	ダウンヒルについては前日のトレーニング時間の最終にタイムドセッション(Timed Session)を行う。これは1ランである。		



<b>解説:</b>	ナンバープレート未装着の選手については、ナンバー装着後走行するように注意を与えます。 ナンバープレート装着をもって、その選手のIDとなり、不慮の事故の際などにも選手の確認などが行えるため装着が義務づけられています。登録チームのマネージャから、コース走行申請が来た場合は、空きナンバープレートに、チーム名を記載し配布します。また、この際の走行に関して、主催者による保険対象となっていない事を通知して下さい。(ナンバープレートはシーズン中各チームで管理してもらいます。)
------------	--

セレモニー (表彰)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
1	各オーガナイザーには実施各種目男女エリート入賞者に対してのプライズ・マネーをお願いします。この額は交通費と同等なレベルとしての配分で、最低金額はは次の通り。 男子エリート 1位:30,000円、2位:20,000円、3位:10,000円 女子エリート 1位:15,000円、2位:10,000円、3位:5,000円 上記にかかわらず、国際大会ではそのクラスに応じたUCI規定が最低金額となります。 これに対するの連盟からの補助は現時点で未定です。		
2	各表彰については次のような順による。 プレゼンター紹介 3位のコールアップ                      メダル授与                      目録(プライズマネー)授与                      副賞授与 2位のコールアップ                      メダル授与                      目録(プライズマネー)授与                      副賞授与 1位のコールアップ                      メダル授与                      目録(プライズマネー)授与                      副賞授与 コメント (全日本選手権大会においては、この限りではなく式典担当者と相談の上実施する。)		
3	<p>ステージ</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>運営にあたっては、ステージ前、2mは登録された報道機関用にスペースを設けてください。また、ステージ設置にあたっては表彰者に対して太陽が当たるような方向を求めていますのでご配慮ください。</p>		
4	各カテゴリーの表彰式の推奨開始時間は クロスカントリーの場合 3位確定後すぐ または 次競技スタート前後  ダウンヒルの場合 男女スポーツ、男女ビギナー (男子エキスパート、スタート前後) 男子エキスパート (男子エリート、スタート前後) 女子エリート (男子エリート表彰と同時) 男子エリート (3位確定後または最終完走ライダーフィニッシュ後すぐ)		
セレモニー (表彰)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
5	通常各入賞者はクロスカントリーの場合フィニッシュより15分以内、ダウンヒルの場合カテゴリー終了後表彰台近くのウェイティングテントに集合する義務がある。これらが守られない場合、チーフ・コミッセルの判断によりペナルティが課せられる。このペナルティは任命チーフコミッセルに任せられるが、基準としては次の通り。 警告 プライズマネー没収 プライズマネー没収+ペナルティ		
<b>解説</b>	プライズ・マネーは額が問題ではなくもモチベーションを高めるためのものですので、総額10~20万程度を想定していますが現段階での可能な範囲での実施をお願いします。 大会では入賞者が原因でセレモニーが遅延するケースが多く、これらは報道、観客に対して影響があり、大会の評価も落としてしまう為、これらをスムーズに運営するためにアメリカでは罰金1000ドルに加えて賞金の没収などを設定しています。違反者を出すのが目的ではなくスムーズな運営を望んでいます。ペナルティの際にはコミッセルによりフォームを作成してください。 また、フィニッシュ直後の表彰に際しては、選手の身だしなみを整えるために、水やタオルなどを準備ください。		



報告	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
1	大会公式発表はコミュニケとして発表される。これらと議事録、リザルト等は報告書にまとめ上げられ、連盟に送付される。リザルト・フォームは、UCI報告/JCFランキングを行うため連盟により設定された様式により作成される。これらはコミッセルの監督の下、オーガナイザーのレースオフィスにより作成される		
2	ドキュメントの最低限配布先および枚数は次のとおり。配布、張りだしについては遅延の無いように、運営されること。		
	・ ノーティスボード		1
	・ カレッジ・オブ・コミッセル (チーフ、アシスタントチーフ、スタート、フィニッシュ、セクレタリ)		5
	・ TD		1
	・ アシスタント・コミッセル		*人数分
	・ アンチドーピング・インスペクタ		1
	・ タイミング・オフィシャル		1
	・ スタート・オペレータ		1
	・ ステージング		3
	・ PA、アナウンサー		2
	・ メディカル(救護)		1
	・ マーシャル・コーディネータ		1
	・ プレス/メディア・コーディネータ		1
	・ アンチドーピング・インスペクタ		1
	また、カテゴリー別に次のような色紙使用を推奨する。		
	白	コミュニケ、インフォメーション、ダウンヒル競技に於けるタイムド・セッション	
	緑	クロスカントリー・リザルト 男子ジュニア・マスター (スポーツ・エキスパート)	
	黄	クロスカントリー・リザルト 女子ジュニア・マスター (スポーツ)	
		4クロス クオリフィケーション・リザルト	
		ダウンヒル 男女 セミファイナル・リザルト	
		クロスカントリー クオリフィケーション(必要な場合)	
	青	クロスカントリー・リザルト 男子エリート	
		ダウンヒル・リザルト 男子エリート	
		4クロス・リザルト 男子	
	桃	クロスカントリー・リザルト 女子エリート	
		ダウンヒル・リザルト 女子エリート	
		4クロス・リザルト 女子	
3	参加登録選手のリザルトおよび選手リストについては、ナショナル・ポイント・ランキング集計用に設定されたカテゴリーIDを使用しなければならない。(全日本選手権大会、J、ではUCIコードを使用する) また、プリントアウト時間の掲示、再発行については「Revised」を明記すること。		
4	リザルトについてはCSVフォーマットによるデータ、およびPDFによる出力が必須。 リザルト・データの送付は電子メールおよび原本のFAXを大会終了後24時間以内に下記宛てに送付。 JCF 03-5561-0508 JMA 03-5363-3201 info@japan-mtb.org		
5	送付する際に使用されるリザルトのファイル名は次の通りとする。(excel-book の場合はまとめて、xc01.xlsのようにし、シート名に各カテゴリー表記をすること)また、これらのファイル内では明記されない、レース・オフィシャル、テクニカルデータは大会名と共にREADME.TXTもしくは、エクセル・ブック内にまとめて送付のこと。データ送付に当たっては、ZIP、LHA形式の圧縮ファイル化も可。		
6	リザルト チェックリスト ① タイトル ② 日付 ③ スタート フィニッシュ タイム ④ コミッセル メンバー ⑤ コースインフォメーション ⑥ 中間タイム(ある場合) ⑦ DS DF DQ コメント その他 ⑧ サイン ⑨ 同タイムでの順位		



報告	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
6	<p>次の符号を使用してファイル名を作成してください。            〈使用符号 (すべて半角)〉            〈種目〉            クロスカントリー : x c                      ダウンヒル : d h            〈大会番号〉            0 0 から 3 5 (大会カレンダーにレースナンバーとして掲示)            〈カテゴリー種別 (統合カテゴリーについては、最上級カテゴリーの符号を使用する)〉            エリート : e エキスパート : x スポーツ : s ビギナー : b            〈クラス種別〉            シニア・エリート : e U 2 3 : u ジュニア : j マスター : m            〈性別〉            男子 : m 女子 : f            〈クオリフィケーションおよび、ファイナル〉            クオリフィケーション : _ q                      ファイナル : _ f            〈例 : 〉            全日本選手権大会 クロスカントリー 男子シニア・エリート                      x c 0 0 e m . c s v            全日本選手権大会 ダウンヒル 女子 ファイナル                                      d h 0 0 e f _ f . c s v            ジャパン・シリーズ (J) ダウンヒル第1戦 男子エキスパート                      d h 0 1 x m . c s v            ジャパン・シリーズ (J1) クロスカントリー第4戦 女子スポーツ                      x c 0 4 s f . c s v            ジャパン・シリーズ (J2) ダウンヒル大会 男子エキスパート                      d h 3 1 x m . c s v</p>		
7	<p>国際大会報告            担当コミッセールは責任を持って、大会の報告は競技規則 1.2.124 により、競技終了後少なくとも2時間以内に完全なリザルトを報告しなければならない。これには、様式「<b>Results return form</b>」を添付すること。            E-mail    <a href="mailto:infostradasports@uci.ch">infostradasports@uci.ch</a>                      2010 年度より FAX は推奨されていない。             また、任命された国際コミッセールは、14日以内に UCI へ、エントリーリスト、テクニカルガイド、経費計算書等を送付しなければならない。担当者名:Annelise Torrent-Day</p>		
関係書類 (作成と報告)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
1	<p>関係書類は、レース・ディレクター、担当コミッセールが責任を持って作製し報告すること。また、大会に関わるデータ提供はレース・ディレクターの義務である。</p>		
2	<p>●レース・ディレクター            計測機材承認願(事前承認)、レース・ディレクターの評価、総合報告書、その他必要に応じて            ●カレッジ・オブ・コミッセール            コミッセール報告書、<b>チェックリスト</b>            ●セクレタリー・コミッセール            チーム・マネージャーズミーティング出席者リスト、議事録、リザルト、コミュニケ、ペナルティフォーム、その他必要に応じて            ●TD(テクニカルデレゲート)            必要に応じて</p>		<p>●レース・ディレクター            計測機材承認願、レース・ディレクターの評価、総合報告書、その他必要に応じて            ●チーフ・コミッセール            コミッセール報告書、リザルト、コミュニケ、ペナルティフォーム、その他必要に応じて</p>
3	<p>ペナルティフォームおよび罰金についての報告はチーフ・コミッセールが連盟事務局に送付する。</p>		

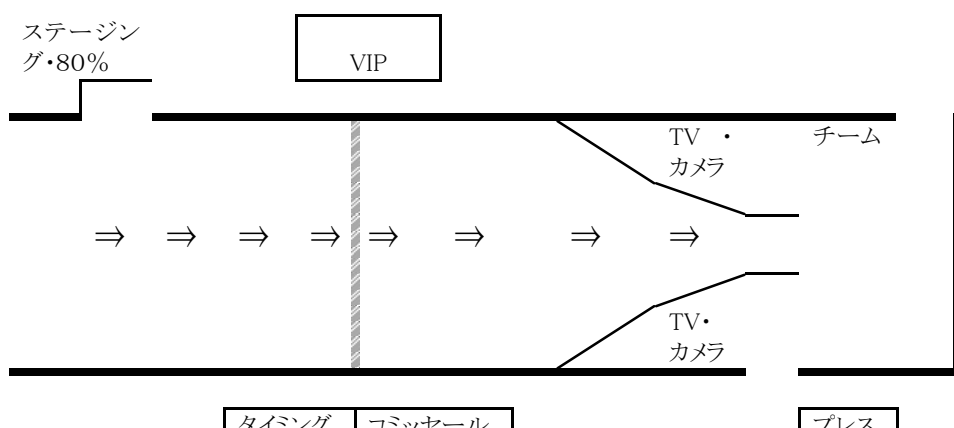


スケジュール グ	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
	推奨スケジュール例 (クロスカントリー/ダウンヒル同時開催) *月*日(金) 9:00-17:00 レジストレーション (受付確認) 9:00-17:00 クロスカントリー・コースオープン (通行不可部分明記) 9:00-16:30 リフト運行 (ダウンヒル) 9:00-15:50 ダウンヒル・コースオープン (全カテゴリー) (必須) 16:15-17:00 ダウンヒル・タイムドセッション 17:00-17:15 チーム・マネージャーズ・ミーティング (必須)  *月*日(土) 9:00-17:00 レジストレーション (受付確認) 9:00-15:30 クロスカントリー・コースオープン (通行規制部分あれば明記のこと) 9:00-15:30 リフト運行 (競技者) 9:30-10:00 ダウンヒル・コースオープン (男女エリート) 10:00-10:30 ダウンヒル・コースオープン (エリート以外) 10:30-11:00 ダウンヒル・コースオープン (全カテゴリー) 11:30- ダウンヒル 男子スポーツ 女子スポーツ 女子エリート・クオリフィケーション 男子エリート・クオリフィケーション 男子エキスパート 15:00- 女子エリート・ファイナル (上位10名) 男子エリート・ファイナル (上位30名) 16:30-17:00 X C T T (男女エリートのみ) プライズ・セレモニー (表彰式 全競技終了後) 17:00-17:15 チーム・マネージャーズ・ミーティング (必須)  *月*日(日) 7:00- 9:00 レジストレーション (参加受付確認) 7:00- 7:45 クロスカントリー・コースオープン クロスカントリー 8:00- 男女ビギナー 9:00- 男子スポーツ 男子ジュニア/マスターズ (全日本) 9:05- 女子スポーツ 11:00- 男子エキスパート 男子U23 (全日本) 11:10- 女子エリート 女子 (全日本) 14:00- 男子エリート 男子シニア/エリート (全日本) 16:30 終了予定 (表彰式は各競技終了後随時行う)		左記補足:  ビギナークラスなどの競技を行う際には、公認競技クラスの前夜、すなわち朝、または夕方に盛り込むことができる。  ほかに、競技に影響がない場合は、その他のイベントを盛り込むことができる。ゲームや市民イベント、ライディング・スクールなど。これらは同時開催イベントなどとなる。  <b>1種目開催の場合は、トレーニング時間3時間を確保すれば、別時間帯にて一般市民イベントやXC TT競技を盛り込める。XC TT競技はナショナル・ポイント対象となる。</b>  <u>ダウンヒル競技に於いては安全性向上のためにエリート競技者の専用トレーニング時間を設定する。この時間は競技前日:最低30分、最大で45分、競技当日30分とする。大会主催者は運営進行によってもこれを超過して他のカテゴリーのトレーニングタイムを圧迫することはできない。</u>

	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
アンチドーピング コントロール	大会にて、「アンチドーピング検査(他、アンチドーピング・コントロール、メディカル・コントロールなどと呼ばれる)」が実施される場合は、任命されたインスペクター(検査官/DCO)と共に競技規則に従って準備することが必要です。選手が陽性と出た場合は、登録抹消などの厳しい判断が出ることもあり、インスペクターはその手順について厳格に実施することが要求されており、付帯する施設、備品についても同様です。		
プレス	必要に応じて前日、当日の朝にプレス・ミーティングを実施し、安全面に配慮したスムーズな取材ができるように配慮する。事前に受け付けたTV、雑誌、新聞社からの派遣記者、JMPA(日本マウンテンバイクプレス協会)会員であり大会のIDを得た者については指定の駐車場、プレスルームが使用できるようにする。フォトグラファー・TVのクルーについては、必要であればIDカード以外に識別できるようにBIBが発行される。JMPA会員は協会BIBにより識別しても良い。フラッシュの撮影については危険性もあるが、プロのカメラマンのみ、選手に対して直接正面からの撮影を行わないことを条件に許可される。クロスカントリーのフィニッシュ時にはコース内に作られる仕切られたエリアでの撮影、ダウンヒルにおいてはフィニッシュ後のホットシート横、表彰時にはステージの最前列に専用のエリアを設ける。		





テクニカル (クロスカントリー)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
デュレーション	<p>標準競技は次の通りとし適合する周回数において行われる。複数カテゴリーを同一時間帯で行う場合は5-10分程度の間隔をあけてスタートが行われる。</p> <p>男子シニア・エリート 2:00-2:15 男子U23/女子エリート/ 男子マスターズ 1:45-2:00 男子ジュニア/女マスターズ 1:30-1:45 女子ジュニア 1:15-1:30</p>	<p>標準競技は次の通りとし適合する周回数において行われる。複数カテゴリーを同一時間帯で行う場合は5分程度の間隔をあけてスタートが行われる。</p> <p>男子エリート 1:45-2:15 男子エキスパート/女子エリート(同一設定) 1:30-2:00 男女スポーツ 1:00-1:30</p>	<p>競技規則よりも短い距離による競技も設定できるが、各個人の競技力が判定できるものとする。</p>
コース	<p>フィニッシュライン前後は平坦または登り坂とする。その他、UCI競技規則による。 担当コミッセルは競技開始前にコース確認フォームにて再確認すること。</p> <p>クロスカントリーの1周の最低距離は5kmである。参加が100名に満たない場合のみ5kmを切ることができる。但し4kmよりも短くはできない。 この場合は、XCS サーキットレースとして実施される。</p> <p>クロスカントリー、スタート・フィニッシュ地点レイアウト例。</p>  <p>男女エリートのフィニッシュ時については、上記の通りメディア向けにフィニッシュライン後方10m程度よりカメラマンのためのエリアを設ける。このエリアに入れる者は事前に受け付けたパス所持者のみである。(選手が集団で入ってくる場合があるので、担当者を2名以上配置し、すぐに待避できるよう十分に注意を促すこと。)</p>		



テクニカル (クロスカントリー)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3																
ステージング (召集)	<p>クロスカントリー・ステージングは定められたランキングにより作成されたスタートリストにて行う。但し昨年度チャンピオンが(該当するクラス)に参加する場合は、1番にコールされる。</p> <p>*全日本選手権大会のスタートオーダー制作優先順は次のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 昨年度チャンピオン</li> <li>2. 国際ランキング上位200</li> <li>3. エリート・ランキング</li> <li>4. エリート・ランキング無し(受付順)</li> <li>5. エキスパート・ランキング</li> <li>6. エキスパート・ランキング無し(受付順)</li> <li>7. スポーツ・ランキング</li> <li>8. スポーツ・ランキング無し(受付順)</li> </ol>	<p>クロスカントリー・ステージングは定められたランキングにより作成されたスタートリストにて行う。</p> <p>ランキングポイントのない選手の場合は、男女エリート、エキスパートは昨年度ランキング、それ以降については申し込み順とする。</p> <p><u>スタートリストは少なくとも競技日の前日に発表されなければならない。</u>ランキング表は各該当オーガナイザーへ電子メールで行われる。万が一入手できない場合はコミッセルの判断に委ねられる。</p> <p>(公表されたスタートリストは、その大会での公式スタートリストとなる。ステージングの事前にプロテストされた例外を除き、スタートリスト上の順番が正式なものとして順にコールされる。リストアップされていない競技者は、スタート・コミッセルの判断により、出走できないか、最後尾でコールされることとなる。)</p>	<p>クロスカントリー・ステージングは定められたランキングにより作成されたスタートリストにて行う。</p> <p>ランキングポイントのない選手の場合は、男女エリート、エキスパートは昨年度ランキング、それ以降については申し込み順とする。</p> <p><u>スタートリストは少なくとも競技日当日の朝までに発表されなければならない。</u></p>																
	<p>*シーズン当初の制作順は次のとおり</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 国際ランキング上位200位迄(エリートのみ)</td> <td>2. 国内ランキング上位者</td> </tr> <tr> <td>3. ランク無しの途中特別昇格者</td> <td>4. 上位よりの降格者</td> </tr> <tr> <td>5. 下位よりのランキングからの昇格者</td> <td>6. その他(受付順)</td> </tr> </table> <p>*シーズン入り後の制作順</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 国際ランキング上位200位迄(エリートのみ)</td> <td>2. 国内ランキング順上位者</td> </tr> <tr> <td>3. 昨年度ランキング(固定ナンバー)</td> <td>3. 申し込み順</td> </tr> </table> <p>*国際大会である場合は上記にかかわらず制作順は次のとおり</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 国際ランキング(エリートのみ)</td> <td>2. 国内ランキング上位者</td> </tr> <tr> <td>3. ランク無しの途中特別昇格者</td> <td>4. 上位よりの降格者</td> </tr> <tr> <td>5. 下位よりのランキングからの昇格者</td> <td>6. その他(受付順)</td> </tr> </table>			1. 国際ランキング上位200位迄(エリートのみ)	2. 国内ランキング上位者	3. ランク無しの途中特別昇格者	4. 上位よりの降格者	5. 下位よりのランキングからの昇格者	6. その他(受付順)	1. 国際ランキング上位200位迄(エリートのみ)	2. 国内ランキング順上位者	3. 昨年度ランキング(固定ナンバー)	3. 申し込み順	1. 国際ランキング(エリートのみ)	2. 国内ランキング上位者	3. ランク無しの途中特別昇格者	4. 上位よりの降格者	5. 下位よりのランキングからの昇格者	6. その他(受付順)
1. 国際ランキング上位200位迄(エリートのみ)	2. 国内ランキング上位者																		
3. ランク無しの途中特別昇格者	4. 上位よりの降格者																		
5. 下位よりのランキングからの昇格者	6. その他(受付順)																		
1. 国際ランキング上位200位迄(エリートのみ)	2. 国内ランキング順上位者																		
3. 昨年度ランキング(固定ナンバー)	3. 申し込み順																		
1. 国際ランキング(エリートのみ)	2. 国内ランキング上位者																		
3. ランク無しの途中特別昇格者	4. 上位よりの降格者																		
5. 下位よりのランキングからの昇格者	6. その他(受付順)																		
スタート	<p>集団スタートのアナウンスメントは、スタート・コミッセルにより以下のように行う。(もしくはスタート・コミッセルの指示により)スタート3、2、1分前、30秒前、15秒前、そしてスタート合図はピストルによって15秒のアナウンスから0秒までの間でいつ行ってもよい。カウントダウンは行わない。</p>																		
ラップ/フィニッシュ	<p>先頭競技者から80%以上、ラップ・タイムから遅れた競技者は(このタイムは最初のフルラップ・タイム/完全な周回距離をもつ1周/により計算される)スタートライン手前に設定された、レーンを使用して除外される。周回遅れの競技者も同じく除外される。この、除外されたすべての競技者は、不足周回数や除外時の順位により順位をつけられる。最終走者がフィニッシュ後、設定時間が経過した時点でフィニッシュを撤収できる。</p> <p>途中リタイヤなど、フィニッシュ地点、または80%ポイントにおいて確認できない競技者は、すべてDNFとし順位/ポイントは与えられない。</p> <p>原則として、ジャパン・シリーズ等と同じように行うが、各大会によりUCI規則上におけるラップアウト処理を行っても良い。</p>																		
テクニカル(クロスカントリー)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3																
順位決定	<p>担当フィニッシュ・コミッセルは、賞典対象内の競技者順位を決定し、チーフ・コミッセルに報告する。次に、順位、名前、(+フリガナ)、チーム名、タイムを記録した用紙を賞典担当に手渡し、即座に表彰が出来るようにすること。(表彰の遅れが出ないように十分注意し迅速に行うこと)</p>																		
解説:	<p>場合により、80%の数値を端数繰り下げして運営し、より周回遅れの選手数を減らすことができる。この判断はチーフの決定を要する。</p> <p>通常80%地点でのオペレーションに必要な人員は2名で専属であること。</p> <p>最終的なフィニッシュ撤収時間の最短時間は、フィニッシュ後の+80%ではあるが、最終周回に入った選手は、基本的に完走までとする。また、いずれの場合にも完走者を十分に配慮して、早期の撤収の際にも走行中の競技者数など確認の上、判定を行うこと。</p>																		



テクニカル(クロスカントリー)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
フィードゾーン	<p>以下の項目について十分な検討と配慮が必要である。  補給方法:ウオーターボトルを使用すること。(全日本、J,J1では協賛社により各300を提供)  場所設定:登り坂で、ゾーン後の登り坂が極端に長くないこと。またゾーン後すぐに障害物や下り坂にならないこと(ボトル装着や補給ができる長さ確保)また、事前にチーフ・コミッセルの決定を受ける事。  補給は、競技者の進行方向の右側のみで行う。サポーターは補給時に、競技者との併走は許されない。(これらは、他の競技者、サポーターへの妨害行為にならないための規則である。1歩動いたことが問題になるのではない)  フィードゾーンの長さは、30~50m位で、直線が望ましい。  <b>それぞれ前後に「テクニカルアシスタンス」とあわせたサインを設ける。</b>  必要であれば、次のような語句の入っている看板を追加で掲示することもよい。(チーフ・コミッセル判断)  「フィードゾーンは、競技者への補給を目的としたもので、観客、報道、応援、その他必要でない行為を行うものについては退場をしていただきます。また、一切のマウンテンバイク機材の持ち込みを禁止し、禁煙とします。  チーフ・コミッセル」</p>		
オーソライズド・テクニカル・アシスタンス (許可された技術的支援)	<p>2006年度国際規則より、許可された大会に於いて、フィードゾーンに隣接された場所において、自転車の部品交換などができる規則が追加されました。(自転車そのものの交換はできません。)  この規則が適用されるのは全日本選手権大会、およびJ、J1の男女エリートカテゴリーのみです。  ・技術支援が行われるフィード・ゾーンは、参加者数に応じて十分長く広いもので明示されること。  ・オリンピック形式において3つのゾーンを設定。(国内のクロスカントリー競技のほとんどは、このオリンピック形式です) 手前より、登録チーム、インディビジュアル(個人)、ニュートラル(主催者/飲料のみ)  ・交換部品、修理工具類はゾーン内に置かれるので、少なくとも一名の管理者を配置すること。</p>		
	<b>Feed Zone Technical Assistance Start Here</b> フィードゾーン / テック スタート	<b>Feed Zone Technical Assistance End Here</b> フィードゾーン / テック エンド	
解説:	この規則は、2006年より国際大会に於いて採用されています。但しアメリカでもこの規則については国内開催のUCIカレンダー大会のプロクラスのみ採用していることから、全日本選手権大会および、男女エリートカテゴリー以外では従来どおりの規則(補給は飲食料、アイ・ウエアのみ)となります。		

テクニカル(ダウンヒル)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
運営	男女エリート・ダウンヒル競技は最新ナショナル・ランキング順でクオリフィケーション(予選)を行い男子上位30名、女子上位10名でファイナル(決勝)を行う。ファイナル進出者以外はクオリフィケーションの順位となる。 他のカテゴリーは設定された最新ナショナル・ポイント・ランキング順で競技を行い、1回の走行タイムで順位を決定する。 スタート順を決定するランキング表は各該当オーガナイザー宛て電子メールで送付される。万が一入手できない場合はコミッセルの判断に委ねられる。 競技では必要であれば、設定時間を設けることができる。時間内にフィニッシュしない場合はDNFとなる。設定基準時間はカテゴリー別トップタイムの200%以上としチーフ・コミッセルが決定する。		
解説:	スタートリスト上の予定スタートタイムを早める場合は、チーフ・コミッセルの決定をなくしては行ってはならない。原則的に、DNSの競技者がいる場合も、詰めてスタートさせない。 競技規則にある、2ラン・システムもJ2においては認められる。		
テクニカル(ダウンヒル)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
計測機器	計測機器については、必ず承認申請を行ったものであること。コンピュータ内臓時計などの計測機器でないものは認めない。 またダウンヒルにおいては、1/1000秒単位の計時、表示が必要である。 UCI General Organization of Cycling 1.2.100.		
テクニカル(ダウンヒル)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
コース	ダウンヒル競技において、スタートの幅員は最少2m、フィニッシュの幅員は最小6mとする。 コースの距離 最短1,500m 最長3,500m 競技時間 3分 5分		
解説:	若干の登りとなっても、スピードを保って通過できる場合のみに限って許される場合がある。これらの判断は、チーフ・コミッセル、TDによる。 コース距離、競技時間は、上記の通りとなっているので、可能な限り基準にあわせること。		



テクニカル(4クロス)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
コース	競技時間は40～60秒の間とする。		
運営	<p>男女登録競技者のみでクオリフィケーション(予選)を行い男子上位64名、女子上位16名がメインレースへ進出する。チーフ・コミッセールは、男女それぞれ総エントリー数がメイン進出数に満たない場合は、次の順にメイン進出者を限定することができる。この発表は少なくとも前日のチームマネージャーズミーティングにおいて発表されなくてはならない。(64→32→16→8→4)</p> <p>メインレースでは別途連番の1～64番のナンバーを用意してメインレース前に配布する。メインレースでは規則通りの組み合わせを行うよう、また、ゲート選択権についても十分に注意すること。</p> <p>競技の運営においては、次のような同チャンネルの無線(イヤホン付き)を配備する。(カレッジ向け5台、マーシャル向け3台以上)、MC向け1台)</p> <p>その他、特別な機材関係としてスタートゲート、イエロー/レッドカード、メインレース用ナンバープレートなどがある。</p> <p>この競技には専用<b>スタートゲート</b>を使用しなければならない。(ボイスボックスとシグナルを備えた幅4m以上のもの。)</p>		

テクニカル(XCTT)	全日本選手権大会 (JCS)	ジャパン・シリーズ (J/J1)	J2/J3
運営	<p>クロスカントリーのコースのうち、3分の1～2程度、タイムで5分前後の距離を設定する。</p> <p>ダウンヒル競技のように30秒の間隔でスタートし、基本的にスタートエリアにフィニッシュし、その走行タイムを競う。計測機器にはダウンヒル用のものを使用する。</p> <p>ダウンヒル競技では予選にポイントがつくシステムとなっているが、これは、そのクロスカントリー版とも言える。但しクロスカントリーと同日内での開催は出来ないので、通常は単一開催の場合の前日の午後に設定します。参加者数の問題によりカテゴリーを統合する場合は事前告知を行ってください。</p>		
賞典	XCTT賞典の一切については主催者により準備される。		
解説:	特にクロスカントリーのみの実施会場では前日に行うことで、選手の顔見せ的な役割を果たす。		

テクニカル(マラソン・フォーマット)	全日本選手権大会 (JCS)	JX
コース	<p>最短競技時間及び最短距離 3時間 60km</p> <p>コースには、競技者が2度通過する部分を含んではならない。</p>	

テクニカル(その他の種目)	全日本選手権大会 (JCS)	JX
	UCI競技規則による。	

